

普及現地情報



発信年月日：令和4年(2022年)11月9日

所属名：大津・南部農産普及課

番号：A22011

部門分類：199（その他作物）

発信者名：柴田 木村

はなふじ米の増収へ向けてヘアリーベッチ栽培の改善

大津地域では、平成19年よりヘアリーベッチのみの肥効で栽培したコシヒカリを「はなふじ米」としてブランド化しました。大津市田上地域の4集落営農法人が栽培し環境こだわり農産物の認証を受けた「はなふじ米」は、JAレーク滋賀の直売所で販売され好評を得ています。また、「はなふじ米」はカーボンフットプリントにも先駆的に取り組んでおり、令和4年度農林水産省温室効果ガス削減見える化実証事業では、温室効果ガス削減効果で最高評価の「三つ星」を得ています。

緑肥作物の利用は国の「みどりの農業システム戦略」でも注目されていますが、近年「はなふじ米」の収量が減少しており、その原因としては緑肥であるヘアリーベッチの生育不足がありました。

当課より「ヘアリーベッチでも麦並みの排水対策を」と呼び掛けた結果、この秋の播種前から実際にほ場の弾丸暗きょ施工や明きょ整備・播種方法の改善に取り組まれています。

当課では、ヘアリーベッチの生育環境をどれだけ改善できたかを示すために、排水対策実施ほ場と慣行のほ場に土壤水分計を置いて調査を始めました。現在のところ排水性の改善が顕著に現れており、ヘアリーベッチの十分な生育が得られる見込みです。

今後はヘアリーベッチの生育を確認するとともに、鋤込み時期とその後の水管理が適切に行われるよう助言を行い、「はなふじ米」の収量アップに向けて支援を続けていきます。



排水対策実施ほ場で土壤水分計を設置



播種されたヘアリーベッチ